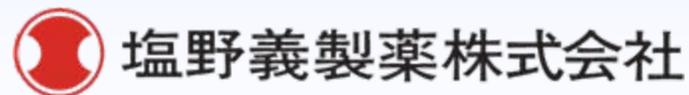




平成20年度(平成21年3月期)
第2四半期 決算説明会

平成20年11月5日
塩野義製薬株式会社
代表取締役社長 手代木 功



将来見通しに関する注意事項

- 本資料において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。その情報は、現時点において入手可能な情報から予測した見込み、リスクを伴う想定、実質的に異なる結果を招き得る不確実性に基づくものです。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利や為替レートの変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
リスクや不確実性は、特に既存および開発中の製品に関連した見通し情報に存在します。それらには、臨床試験の完了ならびに中止、規制機関からの承認取得、製品の安全性ならびに効果に関するクレームや懸念の発生、技術の進歩、重大な訴訟における不利な判決、国内外各国の保健関連制度の改革や法規制などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
また、既存製品に関しては、製造およびマーケティングのリスクがあり、需要を満たす能力を欠く状況、原材料の入手困難、他社との競合などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- 新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項より、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。
- 本資料には、医薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。



平成20年度 中間および第2四半期 決算の概要

**注) 発表数字には、Sciele Pharma社の業績数字を
含めておりません**

経営成績(連結・単体)

(単位:億円)

	20年上期 実績	19年上期 実績	対前年 UP率%	増 減
<連結>				
売上高	1,050	1,041	0.9	9
営業利益	184	171	7.7	13
経常利益	189	171	10.6	18
当期純利益	118	107	9.7	11
<単体>				
売上高	1,000	962	3.9	38
営業利益	162	151	7.6	11
経常利益	179	159	12.4	20
当期純利益	114	90	26.3	24

財政状態およびキャッシュフローの状況(連結)

(単位:億円)

<財政状態>	20年9月期	20年3月期	増 減
	実績	実績	
総 資 産	4,157	4,137	20
純 資 産	3,416	3,422	△ 6
自 己 資 本 比 率	82.1%	82.7%	△0.6%
1 株 当 たり 純 資 産	1,018円96銭	1,020円31銭	△1円35銭
<キャッシュ・フローの状況>	20年上期	19年上期	増 減
	実績	実績	
営業活動によるC/F	183	91	92
投資活動によるC/F	87	△ 85	172
財務活動によるC/F	△ 46	△ 40	△ 6
計	222	△ 34	256
現金等期末残高	898	711	-

セグメント別売上高(連結)

(単位: 億円)

	20年上期 実績	19年上期 実績	対前年 UP率%	増 減
医療用医薬品	743	742	0.1	1
フロモックス	121	124	△ 2.2	△ 3
クレストール	83	44	88.4	39
フルマリン	55	63	△ 13.8	△ 8
リンデロン等外用	52	53	△ 2.8	△ 1
塩酸バンコマイシン	46	55	△ 16.8	△ 9
オキシコンチン	40	32	25.0	8
イムネース	36	64	△ 43.9	△ 28
クラリチン	33	29	14.4	4
フィニバックス	13	12	12.9	1
イルベタン	10	-	-	10
アベロックス	7	8	△ 14.8	△ 1
輸出・海外事業	41	29	38.8	12
製造受託	30	26	13.8	4
一般用医薬品	28	29	△ 2.0	△ 1
診断薬	17	17	△ 0.2	0
工業所有権等使用料収入	178	154	14.9	24
クレストール	166	144	14.9	22
不動産賃貸・その他	13	42	△ 68.9	△ 29
合計	1,050	1,041	0.9	9

* 医療用医薬品の製品別売上高は単体売上高

営業利益(連結)

(単位:億円)

	20年上期 実績	19年上期 実績	対前年 UP率%	増 減
売上高 (ロイヤルティ)	1,050 (178)	1,041 (154)	0.9 (14.9)	9 (24)
	31.4 (37.8)	33.3 (39.1)		
売上原価	329	346	△ 4.9	△ 17
売上総利益	720	694	3.7	26
	51.0	50.2		
販売費・一般管理費	536	523	2.4	13
販売・管理費	328	327	0.2	1
研究開発費	207	195	6.1	12
	17.6	16.5		
営業利益	184	171	7.7	13



平成20年度 業績予測

注) 発表数字には、Sciele Pharma社の業績数字を含めておりません

平成20年度 業績予測(連結・単体)

(単位:億円)

	20年度 予 測	19年度 実 績	対前年 UP率%	増 減
<連結>				
売 上 高	2,310	2,142	7.8	168
営 業 利 益	480	403	18.8	77
経 常 利 益	480	398	20.4	82
当 期 純 利 益	300	250	19.7	50
<単体>				
売 上 高	2,200	2,010	9.5	190
営 業 利 益	445	363	22.3	82
経 常 利 益	460	372	23.5	88
当 期 純 利 益	290	224	29.0	66

セグメント別売上高(連結)

(単位: 億円)

	20年度 予 測	19年度 実 績	対前年 UP率%	増 減
医療用医薬品	1,609	1,551	3.7	58
フロモックス	275	286	△ 3.9	△ 11
クレストール	200	104	91.5	96
フルマリン	110	122	△ 9.7	△ 12
リンデロン等外用	100	100	0.0	0
塩酸バンコマイシン	95	106	△ 10.4	△ 11
クラリチン	95	90	5.5	5
オキシコンチン	85	66	28.6	19
イムネース	72	117	△ 38.4	△ 45
フィニバックス	33	25	30.3	8
イルベタン	25	-	-	25
アベロックス	20	19	5.3	1
ピレスパ	5	-	-	5
ディフェリン	4	-	-	4
輸出・海外事業	88	63	40.0	25
製造受託	63	58	6.9	5
一般用医薬品	58	56	2.2	2
診断薬	32	33	△ 5.6	△ 1
工業所有権等使用料収入	418	320	30.5	98
クレストール	394	298	32.0	96
不動産賃貸・その他	42	58	△ 28.0	△ 16
合計	2,310	2,142	7.8	168

* 医療用医薬品の製品別売上高は単体売上高

営業利益(連結)

(単位:億円)

	20年度 予 測	19年度 実 績	対前年 UP率%	増 減
売 上 高	2,310	2,142	7.8	168
(ロイヤルティ)	(418)	(320)	(30.5)	(98)
	30.7 (37.5)	32.0 (37.6)		
売 上 原 価	710	685	3.5	25
売 上 総 利 益	1,600	1,456	9.8	144
	48.5	49.1		
販売費・一般管理費	1,120	1,052	6.4	68
販売・管理費	660	649	1.6	11
研究開発費	460	402	14.2	58
	20.8	18.9		
営 業 利 益	480	403	18.8	77

配当政策について

- 2008年度見通し：1株当たり28円(変更なし)
- 2009年度以降：配当性向(連結)目標 35%

Sciele Pharmaの買収に伴う配当政策の変更は行わない



Sciele® の買収
Pharma, Inc.

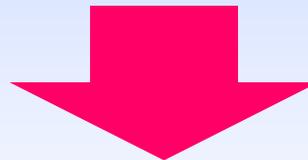
シオノギの海外戦略

第二次中期経営計画

- 2009年度末にはPhase II以降に最低5品目以上を創出
- 日米欧3極で複数の自社製品を同時開発
- 製品毎に戦略的なアライアンスを継続的に展開

中長期的な課題

- 米国での販売体制の確立
- 継続的な自社パイプラインの拡充
- グローバル化に対応できる人材の育成



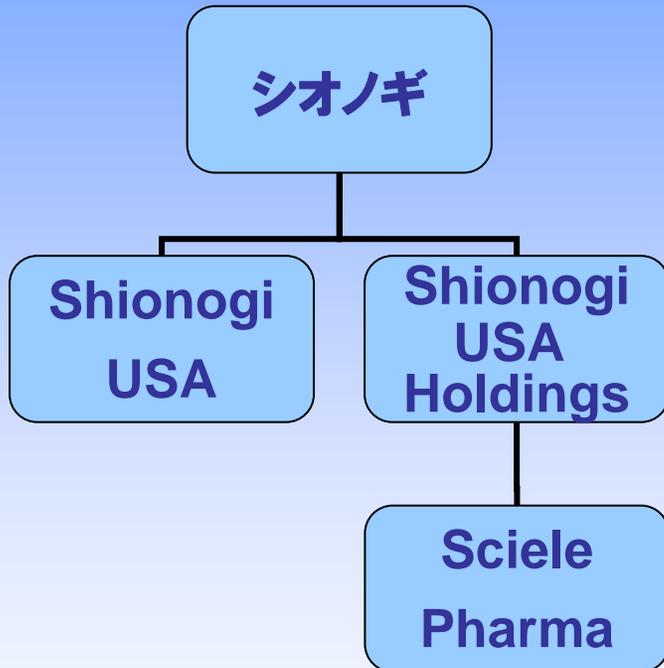
Sciele Pharmaの買収によるグローバル化の加速

Sciele Pharma の買収完了

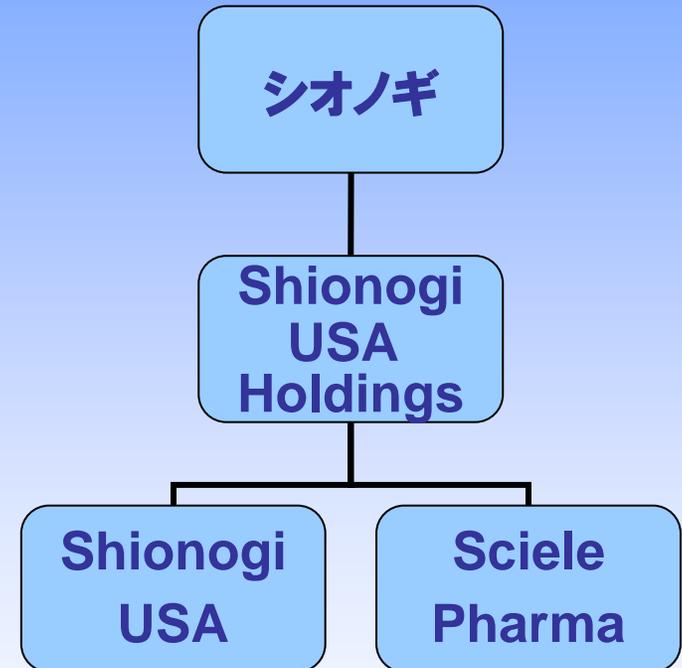
- 2008年10月8日 公開買い付け満了
全発行済み株式の92.0%応募
- 2008年10月9日 簡易合併により、米国統括会社
Shionogi USA Holdings, Inc.の100%子会社化を完了
- 株式取得価格：
1株あたり\$31 総額:\$1,099Million
転換社債の元本部分の償還費用も含めて \$1,424Million

米国におけるガバナンス

現時点



今後



今後の米国におけるガバナンス体制を決定すると共に、
ScieleとShionogi USAとの効率的な業務運営体制に
ついて協議を開始

買収資金の調達

- ブリッジローンにより、1,100億円を調達
自己資金約450億円を加えて買収資金に充当
- 今後、市場動向やコスト面を総合的に検討の上、
長期借入金、普通社債等のパーマネントローンに
切り替えの予定

買収による効果

- 自社パイプラインを米国において自社販売することによる収益力の向上
 - 700名超のMRによる全米での販売網
 - 米国での上市・販売に関する優秀なノウハウの活用
 - 当社の重点領域である循環・代謝領域における販売面の強み
- 米国における開発活動、インライセンス活動の機能強化
- 製造関係の技術情報の交換によるグループとしての原価低減
- 税務ストラクチャーの最適化による節税効果
- 米国での事業運営のインフラ整備
 - マーケティング、薬事、アドミ関係の機能強化



買収による損益への影響

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
<Sciele 業績予測>				(百万ドル)
売上高	105	500	650	780
営業利益	30	140	200	250

※ 2008年度は10月～12月

<買収に伴う影響>				
金融収支の増減	L 約10億円	L 約20億円	L 約20億円	L 約20億円
IPR&D、無形固定資産、のれん等	確定後速やかに各年度への影響について公表			

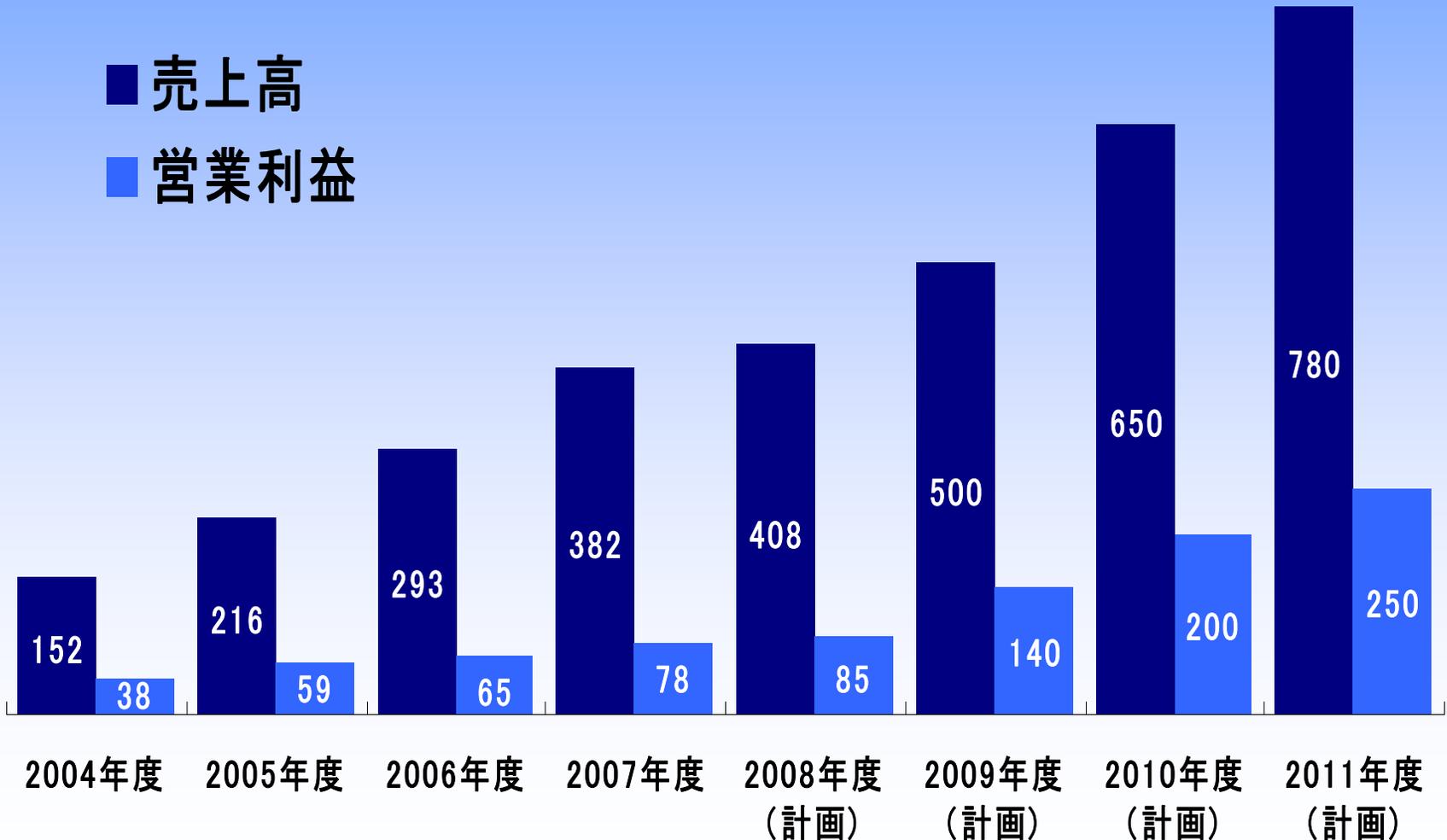
EPSへの影響	減少見込み	増大	増大	増大
---------	-------	----	----	----

Scieleの継続的な成長

<Sciele社業績予測>

(単位:百万ドル)

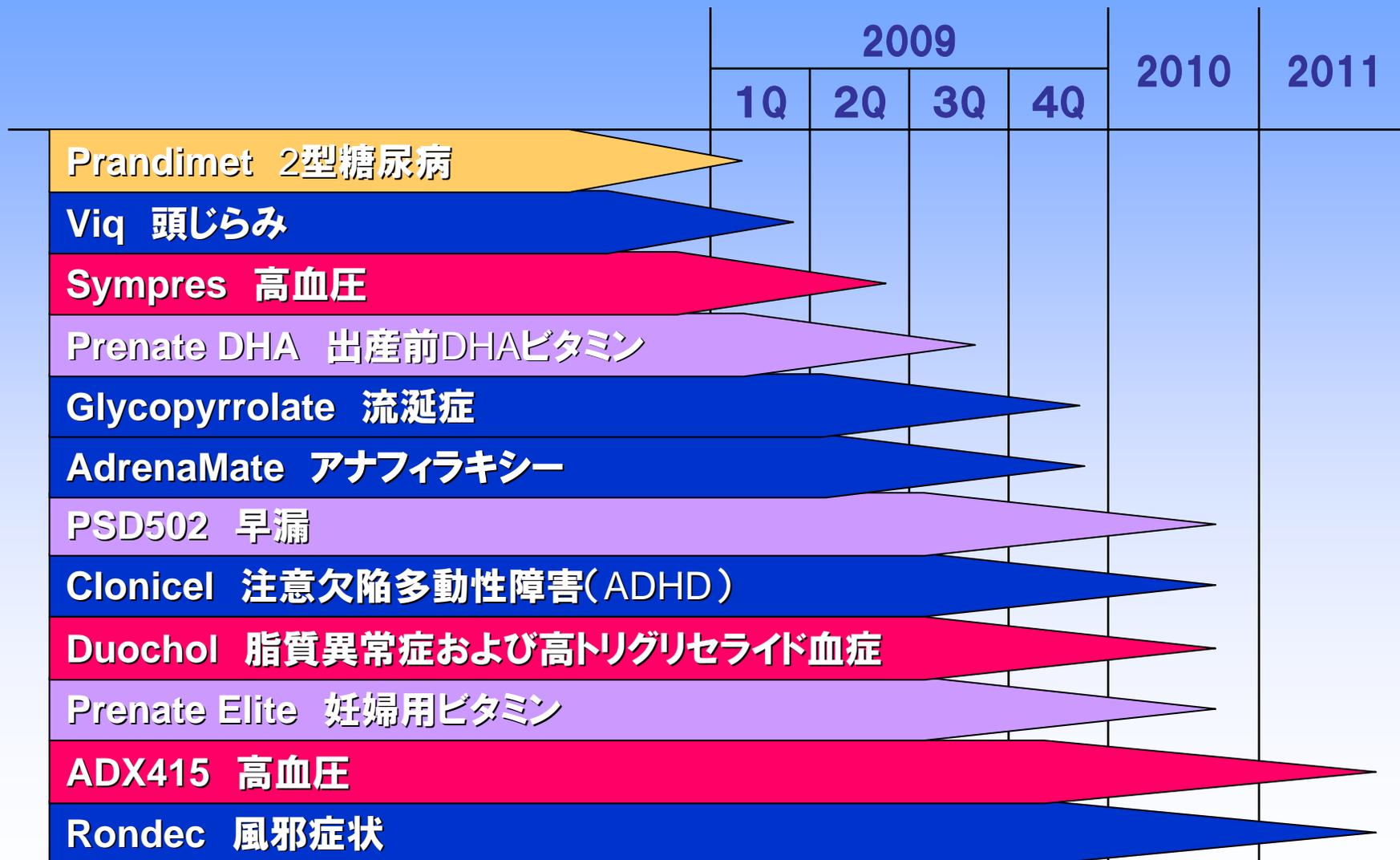
- 売上高
- 営業利益



Scieleの成長戦略

領域	成長に向けた戦略	売上予測(百万ドル)	
		2008年度	2011年度
糖尿病	Fenoglide/Triglideを維持しつつ、2型糖尿病治療薬Prandin/Prandimetの拡大	116	215
循環器系	Nitrolingual Pumpsprayを維持しつつ、高血圧治療薬Sympres/Sympres XRの成長による存在感の維持	147	195
婦人科領域	妊婦用ビタミン剤Prenate Familyの拡大、および早漏治療薬PSD502の上市	72	160
小児科領域	Allegra(アレルギー)、Orapred(喘息)、Twinject(アナフィラキシー)の拡大およびAdrenaMate(アナフィラキシー)、Viq(頭じらみ)、Clonicef(ADHD)の上市	73	210

成長を牽引するパイプライン





パイプラインの状況

開発段階の進展 (1) (第1四半期決算発表時以降)

- **ディフェリン[®]ゲル (アダパレン, 外用尋常性ざ瘡(ニキビ))**
 - 2008年10月21日発売
- **ピレスパ[®] (ピルフェニドン, 特発性肺線維症)**
 - 2008年10月16日承認
- **S-021812 (ペラミビル, インフルエンザ)**
 - 2008年9月からPh IIIを開始 (アジア共同試験)
- **S-811717 (塩酸オキシコドン注, 癌疼痛)**
 - 国内でPh IIIを開始 (中等度から高度疼痛を伴う各種癌における鎮痛)
- **S-0373 (非ペプチド型TRHミメティック, 脊髄小脳変性症)**
 - 導出先のキッセイ薬品によりPh II準備中
- **S-555739 (PGD2拮抗薬, アレルギー疾患)**
 - 欧州でProof of mechanism (PoM)試験を開始
- **S-222611 (Her2/EGFRデュアル阻害薬, 悪性腫瘍)**
 - 欧州でPh Iを準備中

開発段階の進展 (2) (第1四半期決算発表時以降)

● NS75B (LHRHアンタゴニスト, 前立腺肥大症)

- Ph II 試験終了。強いプラセボ効果を認め、プラセボ群に対する有意差は認めなかったが、実薬群における用量依存的なI-PSSの改善を認めた。また、より重症の患者において、プラセボ群との効果の差は拡大した。さらに、前立腺の有意な縮小を認めた。
- 高用量(海外で採用されている2週間隔2回に分割投与)を加えた検証試験準備中

● S-777469 (CB2受容体アゴニスト, アトピー性皮膚炎)

- 短期(1, 4週)投与による国内前期Ph II試験終了。プラセボ群に対し、実薬群における皮膚炎症状の改善は有意でなかったが、投与期間に応じてプラセボ群との差が拡大する傾向を認めた。
- 米国において12週投与試験実施中。
- なお、フォローアップ化合物の外用剤についても、来年の臨床入りを目指して開発検討中

※ LHRH: 性腺刺激ホルモン放出ホルモン(Luteinizing Hormone-Releasing Hormone)

※ I-PSS: 国際前立腺症状スコア(International Prostate Symptom Score)

パイプライン一覧(2008年11月現在)



	Ph I/Ph IIa	Ph IIb	Ph III	申請	上市
重点3領域 感染症		S-013420 (細菌感染症)	フィニバックス® (小児感染症)	ドリペネム (US RTI)	ドリペネム (US cIPI, cUTI)
			フィニバックス® (用法・用量追加)		ドリペネム (EU RTI, cIPI, cUTI)
	S-349572/S-265744/ S-247303 (HIV感染症)		S-021812(ペラミビル) (インフルエンザ)		フィニバックス® (2005年度)
疼痛			デュロキセチン (DNP)		アベロックス® (2005年度)
			S-811717 (オキシコドン注)		オキノーム® (2006年度)
MS		S-2367 (肥満)			クレストール® (2005年度)
		S-3013 (動脈硬化)		(2008年7月発売)	イルベタン® (高血圧症)
フロンティア領域 アレルギー		S-777469 (アトピー性皮膚炎)			クラリチン® ドライシロップ (2007年度)
	S-555739 (アレルギー疾患)				
その他	S-888711 (血小板減少症)			(2008年10月承認)	ピレスパ® (特発性肺線維症)
	S-0373 (脊髄小脳変性症)			(2008年10月発売)	ディフェリン® (にきび)
	S-222611 (悪性腫瘍)	S-0139 (脳血管障害)		デュロキセチン (うつ)	→ (2009年度)
		NS75A (子宮筋腫)	NS75B (前立腺肥大症)		セトロタイド® (2006年度)

RTI: 呼吸器感染症, cIPI: 複雑性腹腔内感染症,
cUTI: 複雑性尿路感染症, DNP: 糖尿病性神経因性疼痛

自社品
導出品
導入品
 自社創製グローバル開発品